聖霊降臨日メッセージ「弁護者に導かれて」　　聖職候補生 島 優子

使徒言行録 2:1-11　ヨハネによる福音書 14:8-17

イエス様の昇天（今年は 5/21）から 10 日間、今日まで皆さまは聖霊を求めて祈りのうちに過ごされてきたことでしょう。お手元に届けられた「み国が来ますように」の小冊子を活用して、日々み言葉に触れ、5 人の友のために祈り続けた方もおられるでしょう。

使徒言行録 1 章においても、イエス様の昇天を見届けた弟子たちと婦人たちは、皆で心を合わせて熱心に祈っていたと書かれています。本日の 2 章ではその弟子たちにまさに聖霊が降った瞬間が記されています。激しい風のような音と共に、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、霊が語らせるままに他の国々の言葉で語らせた・・・激しくドラマチックな場面が目に浮かびますが、普通ではあり得ない出来事を起こすのが聖霊です。ここで弟子たちによって始められた福音宣教の第一歩が、聖霊に導かれてますます力を帯び、多くの人を招き入れながら各地に教会が建てられていく様子が使徒言行録に記されています。そういう意味からも、本日の聖霊降臨日を「教会の誕生日」として祝うようになりました。特祷において、「どうか福音の宣教によって、この聖霊がますます世界に注がれ、地の果てにまで広がりますように」と祈りますが、2000 年という途方もない間、多くの紆余曲折を経ながらキリストの福音が伝え続けられ、東の果ての日本まで届き、今、私たちが信仰によって福岡聖パウロ教会という共同体に繋がっているのは、まさに奇跡のようなことです。と同時に、これを後世へ伝えていく使命も重く受け止めなければなりません。

父なる神、子なる神に比べて、聖霊なる神は少し捉えにくいように感じますし、弟子たちに起こったような劇的な出来事がない限り、その存在というのは意識されにくいかもしれません。しかし私たちは水ではなく聖霊による洗礼を授けられ、その真理の霊は永遠に私たちと共にいて下さるとイエス様は言っておられます。聖書では「弁護者」という訳語が充てられていますが、私たちを守り導く者として、支援する者として、また神の力や神の存在を私たちに示す者として、父と子が約束して送って下さった霊です。聖霊はその折々に、様々な働きかけをなさいます。私たちの道を励まして後押ししたり、逆に警告して踏みとどまらせることもあるでしょう。皆さまの中にも、人生において「これこそまさに聖霊の働きだ!」と実感された経験をお持ちの方もいらっしゃるかと思います。実際私自身、今こうして聖職候補生という立場にあること自体、自分の考えを超越し、自分の力だけではどうにもならないことであり、聖霊なる神に導かれていることの現れだと信じています。

そのような聖霊に満たされている私たち一人一人が集う教会もまた、聖霊と共に歩み続けています。ここ2～3か月はその歩みが止まり、危機に陥ったように見えますが、この状況下でも、私たちが自らの信仰や教会の存在意義を改めて見つめ直したり、会えなくなった隣人を気遣うようにと、聖霊が導かれているのを感じます。そして、聖霊降臨と共に動き出した初代教会のように、私たちの教会も次週三位一体主日から聖霊と共に再び礼拝を開始する運びとなりました。さまざまな国の言葉でキリストを力強く証しした弟子たちに倣って、私たちもそれぞれに与えられた賜物を活かしながら、福音を宣べ伝える者として、新しいスタートを切りましょう。